

# 日慢協学会のご案内

## 第34回 日本慢性期医療学会

(併催)第14回慢性期リハビリテーション学会



健康経営からはじまる  
地域共生社会(まちづくり)の実現

～慢性期医療が果たすべき役割とは～

会 期 令和8年11月19・20日

会 場 福岡国際会議場  
(福岡市博多区石城町2番1号)

学会長 中尾 一久  
(医療法人社団久英会 理事長)



主 催 : 一般社団法人日本慢性期医療協会 〒162-0067 東京都新宿区富久町11-5シャトレ市ヶ谷2階

運営事務局: 株式会社学会サービス 〒150-0032 東京都渋谷区鶯谷町7-3-101  
TEL 03-3496-6950 FAX03-3496-2150

## 当日参加登録

2026年11月19日(木)～  
11月20日(金)

※会期当日、会場受付での  
参加登録になります(現金のみ)



詳しくは学会  
ホームページへ!



学会メインテーマ

# 健康経営からはじまる地域共生社会（まちづくり）の実現

～慢性期医療が果たすべき役割とは～



起点  
企業の健康経営



健康の土台・ハブ  
慢性期医療の役割



目指す将来像  
地域共生社会の実現



学会長  
中尾 一久

学会の主題

健康経営を起点とした地域共生社会の構築と慢性期医療の役割

## 開催背景と基本理念

⚡ 「共生と調和」の精神を地域づくりの原点とし、新たな医療と社会のあり方を提示します。

### 01 思想的背景

「八紘為宇」に通じる  
共生思想の原点

八紘為宇（はっこういう）

「世界を一家のようにする」という古来の理想。

- ✓ 世界中の人々が多様性を認め合う
- ✓ 調和の中で共に未来を築く「共生と調和」の精神

### 02 現代の文脈

地域包括ケアシステムの  
深化・拡大としての社会

地域共生社会（まちづくり）

医療・介護の枠を超えた包括的社会モデル  
。

- ✓ すべての住民が支え合い、自分らしく暮らす
- ✓ 従来のケアシステムを深化させた「まちづくり」

### 03 議論の主眼

健康経営の推進と  
慢性期医療の役割確立

本学会での主要テーマ

企業・地域・医療が一体となる実践的連携  
。

- ✓ 企業の「健康経営」を地域づくりの起点とする
- ✓ 生活を支える慢性期医療の具体的機能を定義

## 健康経営が地域社会にもたらす価値

📈 企業の健康経営は社内にとどまらず、地域全体の健康づくりを推進する起点となります。

### 01 活力と経済の持続

働く世代の健康維持が  
地域全体の持続性を支える

生産年齢人口の健康基盤

働く世代の活力維持が地域社会・経済の持続性に直結。

- ✓ 従業員の健康が企業の生産性と活力を創出
- ✓ 世代全体の健康維持が地域経済の基盤を安定化

### 02 地域連携の強化

企業の健康施策と  
医療・介護・福祉の連携

地域コミュニティの一角

企業施策を地域医療・介護資源と接続し全体を底上げ。

- ✓ 企業は地域における重要なコミュニティの一部
- ✓ 多機関連携を通じて地域全体の健康度を向上

### 03 予防重視への転換

生活の質（QOL）向上と  
地域医療費の適正化を両立

未病・予防へのシフト

早期予防が住民のQOL向上と持続可能な医療制度を両立。

- ✓ 生活習慣病・フレイル予防による生活の質向上
- ✓ 発症・重症化の未然防止による医療費適正化

## 目指すべき地域共生社会（まちづくり）

 すべての住民が支え合い、自分らしく暮らし続けられる包括的な社会モデルを目指します。

### 01 多様性と包摂

多様性と  
ウェルビーイングの実現

誰も取り残さない共生

年齢・障害・疾病に関わらず、一人ひとりが自分らしく共に暮らす社会。

- ✓ 個々の状態や特性を認め合う包摂の姿勢
- ✓ 生活の質と幸福感（Well-being）の最大化

### 02 セクター連携

多機関が一体となった  
包括的な協働体制

多セクターのプラットフォーム

医療・介護・福祉・企業・行政の垣根を越えた連携ネットワーク。

- ✓ 専門職と行政・企業による重層的な支え合い
- ✓ 地域資源を有機的につなぐ持続可能な基盤

### 03 コミュニティ形成

住民主体の活動促進と  
孤立防止の仕組みづくり

支え合いのネットワーク

住民が主役となる活動を育み、地域の社会的孤立を未然に防止。

- ✓ 住民主体のサロン・健康づくり活動の推進
- ✓ 日常的な見守りと助け合いによる安心の確保

## 慢性期医療の役割 (1) : 地域のハブと予防拠点

 患者の生活に最も身近な医療として、地域連携のハブおよび予防拠点として機能します。

### 01 地域のハブ機能

生活と医療の接続と  
多機関連携の推進

日常の暮らしをつなぐ  
在宅医療・介護事業所・ケアマネジャー・  
企業との緊密な協働。

- ✓ 訪問診療・訪問看護・介護事業所との  
情報共有
- ✓ 地域包括支援センターや企業との連携  
強化

### 02 予防・未病拠点

疾病予防と重症化防止  
自立支援リハビリ

悪化・再発させない医療  
生活習慣病管理からフレイル予防、身体機  
能維持まで包括支援。

- ✓ 継続的な生活習慣病の管理とフレイル  
対策
- ✓ 機能回復と自立を促すリハビリテーシ  
ョン

### 03 健康経営連動

地域啓発の推進と  
企業の健康経営連携

社会に向けた健康づくり  
住民向け健康講座など企業の健康経営施策  
と連動した取り組み。

- ✓ 住民向け健康講座・セミナーによる未  
病啓発
- ✓ 企業の健康相談や産業医連携を通じた  
健康底上げ

## 慢性期医療の役割 (2) : 多職種連携と生活支援



院内の多職種協働の強みを地域へ展開し、長期療養や生活機能低下を支えます。

### 01 早期発見・早期対応

多職種協働による  
切れ目のない支援

チーム医療の地域展開  
多職種連携により住民の困りごとや生活課題を早期にキャッチ。

- ✓ 医師・看護師・リハビリ・介護・SW等の専門性統合
- ✓ 生活機能や健康状態の変化に対する早期介入

### 02 基盤強化と深化

ゲートキーパーとしての  
支援基盤の強化

地域ケアシステムの進化  
ゲートキーパーとして地域包括ケアシステムを深化・発展。

- ✓ 地域内の相談窓口や関係機関との強固なネットワーク
- ✓ セーフティネットとして機能する医療体制の確立

### 03 生活の継続支援

在宅復帰と退院後設計  
家族支援・見守り連携

住み慣れた地域での生活  
高齢者・障害者の長期療養や生活機能低下を全人的に支援。

- ✓ 在宅復帰支援と退院後の持続可能な生活設計
- ✓ 介護家族への寄り添いと地域見守りネットワーク連携

## 健康経営×慢性期医療が描く未来像

⚡ 慢性期医療が「健康の土台」となり、誰も取り残さない持続可能な地域社会を創出します。

### 01 協働による課題解決

#### 企業と医療機関の強固な連携

企業と医療機関が手を取り合い、地域の健康課題の解決と未病・重症化予防を推進。

- ✓ 産業保健と地域医療の架け橋となる連携モデル確立
- ✓ 健康経営の普及による地域全体の持続可能性向上

### 02 全世代包括ケア

#### 子ども・働く世代から高齢者まで

ライフステージを通じた切れ目のない支援体制で、孤立を防ぎ社会参加を支える。

- ✓ 医療・介護・福祉・企業・行政が一体となった支援網
- ✓ 世代を超えて支え合い、安心して暮らし続けられる基盤

### 03 パラダイムシフト

#### 「治す医療」から「支える医療」へ

急性期の治療後も生活機能の維持とQOLを重視し、暮らし全体を支える医療へと転換。

- ✓ 在宅復帰と退院後の生活再建に寄り添う慢性期機能
- ✓ 自立支援リハビリと全人的な生活支援の徹底

### 04 地域共生・まちづくり

#### 住民主体の持続可能なまちづくり

多様性を認め合い調和する共生社会のもと、住民一人ひとりのウェルビーイングを実現。

- ✓ 慢性期医療が「地域の健康インフラ」として中心的な役割を担う
- ✓ 住民・企業・専門職が調和し、共に創り上げる地域社会